

下村尚久様 (EWE 元会長、1960 年電気通信学科卒) に随想を寄稿していただきました。

「EWE ウェブニュースとライン河クルーズ」

EWE の会員は学生、教職員と卒業生である。この内学生、教職員会員には卒業生と学生の交流会などサービスを行っているが、EWE の財政を支えてくれている卒業生のうちのシニア会員へのサービスは少ない。EWE ウェブニュースは当初これらシニアの交流の場を主な目的につくられた。

初心に戻り、シニアの方の交流投稿を期待している。投稿いただく参考に今回はライン河クルーズの話を書こう。

昨年 9 月初め思い立ってクルーズに出かけることにした。最近は自社船を所有する日本のクルーズ会社も盛んになっているが、折角なので、米国の会社に申し込んだ。既に満員で 10 月末のクルーズの最後の 1 部屋だけが残っていた。大体秋のクルーズは前年か少なくとも春には予約しているようだ。

148 名の乗客はケンタッキー、テキサスからミネソタまで米国各地の人に、カナダの人、欧州の人が大部分で、日本人は我々夫婦だけだった。

出発日にアムステルダム中央駅のすぐ裏側の指定された船の係留地行くと 4~5 隻の各社のクルーズ船が停泊していた。申し込んだ船に乗り込むと、乗員全員で歓迎してくれ、定刻に出発した。

北海に面したアムステルダムからスイスの国境の町バーゼルまで 8 日間の旅である。アムステルダムとバーゼルの間には 220 メートルの高低差があり、14 か所のパナマ運河の様なロックで高度を上げていく、我々にとっては興味深い光景だ。

沿岸には双塔の大聖堂で知られるケルン、ローレライ等を通る。ローレライの少女像は岩壁の上にあるのかと思っていたら、目の前の水面すれすれのところにあり、びっくりした。その他ハイデルベルクなど日本人にも馴染みのある都市があり、停泊して観光する。

観光は自転車組、バス組、この中でも一般とジェントルウォーク組とシニアにも配慮されていた、ゆっくり時間の過ごせるシニアには楽しい思い出の 7 泊 8 日の旅行となった。

以上

ウェブニュース配信停止をご希望の方は jimukyoku@ewe.or.jp へご連絡ください